

民生委員・児童委員通信 しあわせ HAPPY NETWORK

No.14

平成 24 年 3 月

発行 守山市民生委員児童委員協議会

事務局 守山市社会福祉協議会
住所 守山市下之郷三丁目2番5号
TEL 077-583-2923

ひ あ い
ふ わ あ い
さ や え あ い

民生委員・児童委員は、地域のみなさまとの出会いとふれあいを大切にし、安心安全と支え合いの地域社会づくりを行っています。



吉身学区 Yoshimi



福祉の心を育てるつどいに参加



小津学区 Ozu



学区民のつどいで子どもたちとクラフト製作



守山学区 Moriyama

学区民のつどいで共同募金啓発



玉津学区 Tamatsu



学区民のつどいで防災紙芝居「いなむらの火」上演



河西学区 Kawanishi



自治会長、福祉協力員、民児協の交流会での語り合い



遠野学区 Hayano



こんにちは！赤ちゃん訪問です!!

**つなごう手と手 心と心
～児童虐待に学ぶ～**

研修報告

去る12月8日（木）、守山市民児協の第2回全員研修会を開催しました。講演に先立ち、園田光三会長より先の東北地方を襲った災害と原発事故に触れ、守山市も琵琶湖を媒介として決して無関係ではなく、それぞれが与えられた責務を全うすべく資質向上に努めようと挨拶がありました。続いて守山市主任児童委員会より、手作り紙芝居の実演とその成果報告の発表がされました。

研修は、山田容龍谷大学准教授を迎えて『子ども虐待の概要と地域の役割』と題する講演を受けました。虐待の文字を日常的に見聞きする昨今、様々な事例が示されました。従来日本では、子育ては家庭が担うという観が強く、しつけと虐待の境界に対する曖昧さが、判断や介入のためらいを生み、結果子育て困難の延長線で事件がおきている。家庭の背景にある様々な要因を思いやりながら、「完璧な子育ては無い」という考え方を基に、普段頑張っている姿を評価し、虐待行為は肯定しないがその人の辛さを思いやり、周りが監視や抑圧的にならないように配慮し、地域で「気づき」「つなぎ」そして「関わる」と本音が出やすい関係を構築することが求められる、と結ばれました。私たち民生委員・児童委員の役割について、深く考える機会となりました。（林田記）

**守山市民生委員児童委員協議会
全員研修会**

▲ 講師の山田容准教授

(林田記)

部会活動

草津市民児協高齢者福祉部会と交流会を開催して思う

高齢者福祉部会（第2部会）部会長 岡田 和男

今回、草津市民児協高齢者福祉部会からの依頼を受けて当部会、初めての試みとして、去る11月14日（月）守山市すこやかセンターにおいて交流会を開催しました。草津市32名、守山市34名の構成員で、酒井久美子ノートルダム女子大学准教授を迎えて、「現代社会における高齢



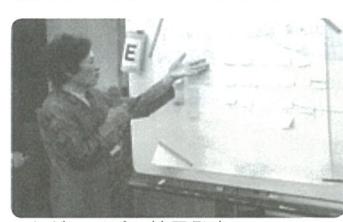
▲始めて両市の取り組み内容を発表

者問題について」の講演を頂き、その後グループに分かれ、自らの活動を通して「民生委員としての悩み事」等を話し合いました。

その結果、一番多く出された意見は安否確認の悩みで、例えば認知症の方への対応の難しさ、さらにマンションに住まいをされている単身高齢者の訪問において、インターホンからの返答がないために、黄色いハンカチ、FAXの利用、郵便受けの確認等、色々な工夫をして安否確認等をしている意見もありました。その後、酒井先生から「容易に解決できない相談や見守り活動がありますが、行政、介護職員その他関係者との連携や地域ぐるみで支える等、つなぎの役割が必要であり、できることできる範囲で無理をせずに活動することが大切です」と教示を頂きました。



▲グループに分かれて意見交換



▲グループの結果発表

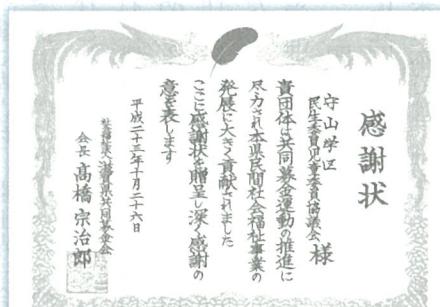
今回、市を超えての交流会を開催しましたが、お互い同じような悩み、課題について有意義な意見交換ができる良かったと思います。



滋賀県共同募金会より感謝状

これまでの共同募金運動への協力を認められ、このたび市内7学区民児協のすべてに、滋賀県共同募金会より感謝状が授与されました。

これも地域のみなさまのご支援ご協力あってのことと深く感謝し、今後も引き続き、取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いします。



▲写真は守山学区の感謝状

学区だより.....

『2011 地域福祉活動フォーラム㏌しあわせ』に参加して 玉津学区

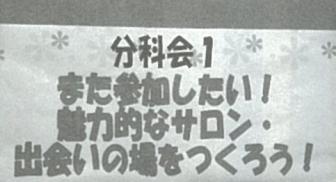
玉津学区民児協会長 水野 民男



平成23年11月18日、県立長寿社会福祉センターにおいて地域福祉活動フォーラムが開催されました。

「笑顔がつなぐ！人の和 まちの輪 おうみの環」をテーマに、大教室が満席の600人の参加で、地域福祉を考えた一日でした。

午前の部では、宮城県多賀城市社会福祉協議会会長の飯田典美さんから東日本大震災の生々しいお話しと映像で、会場が一時静まり返りました。続いて災害ボランティアとして参加した多賀町の山本吉洋さんは、家族5人の活動での思い出多い様子が発表されました。企業からは滋賀ダイハツ販売からボランティア活動の報告を、大津市山中比叡平学区から活動報告がされました。昼食時もフォーラムの一環として位置づけられ、弁当作りを協力された県内各地の作業所や、赤十字奉仕団、学区社協などが紹介されました。



午後からは、8分科会に分かれ、サロンの在り方、地域福祉の楽しみ、NPO法人の活動などをテーマに事例発表がありました。守山市社協の小島健史さんもコーディネーターとして活躍されました。私は第1分科会に参加し、竜王町美松台ふれあいサロンの活動や、甲賀市信楽地域福祉活動についての事例発表を聞きました。なかでも信楽の防災ベンチづくりは、とても興味あるものでした。

全体的に歌、映像、パフォーマンス等で幸せな気持ちで一日を終えることができました。



地域の中で地味だけど、みんなのことをあたたかく見守っている。「つかず離れずの距離で時々会いにきてくれたり、良く話を聞いてくれる。道で会えば声をかけてくれる。なんとなく心が和む。本当に困った時、頼りになる」そのような存在でありたいと思います。
今年は何としても平穏な年であつてほしい。それが何よりの「しあわせ」であろう。(寺田宗記)

(岡田記)

編集後記

